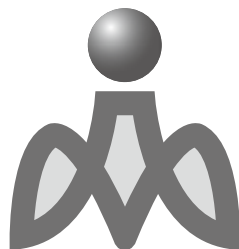


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔平成29年4月～6月実績〕
〔平成29年7月～9月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調査要領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景況概観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景況概観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景況概観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景況概観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 165企業

2. 調査対象期間

第1四半期 平成29年4月～6月期 「調査時点：平成29年6月1日」

3. 調 査 方 法

県内の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービ業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韭 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	53	165

5. そ の 他

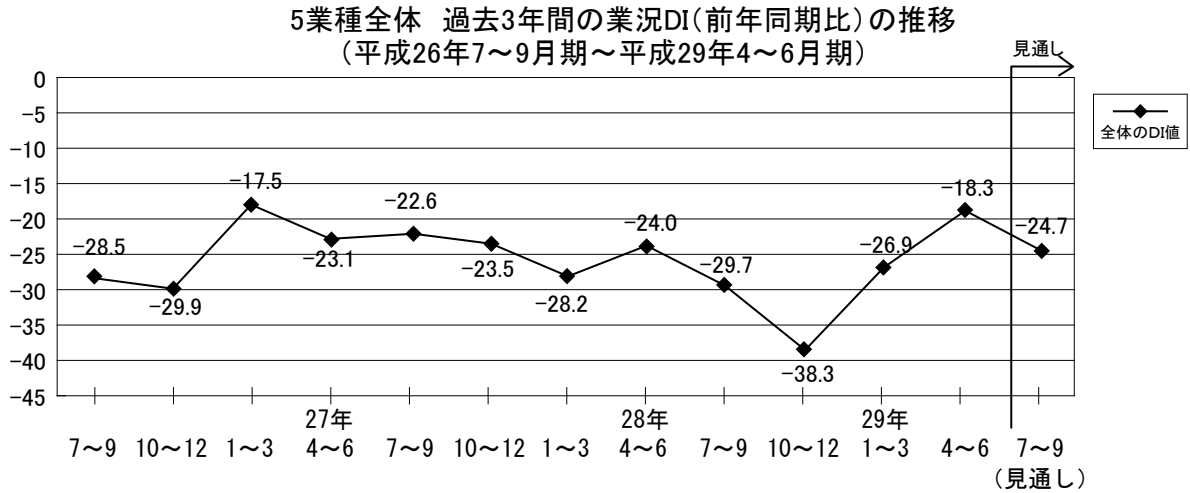
①本報告書のD Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

②次頁【II】1. 産業全体の業況概観については、商工会調査企業だけではなく、他の本県経済団体調査企業（卸売業を含む）を含んだ286サンプルによるものである。

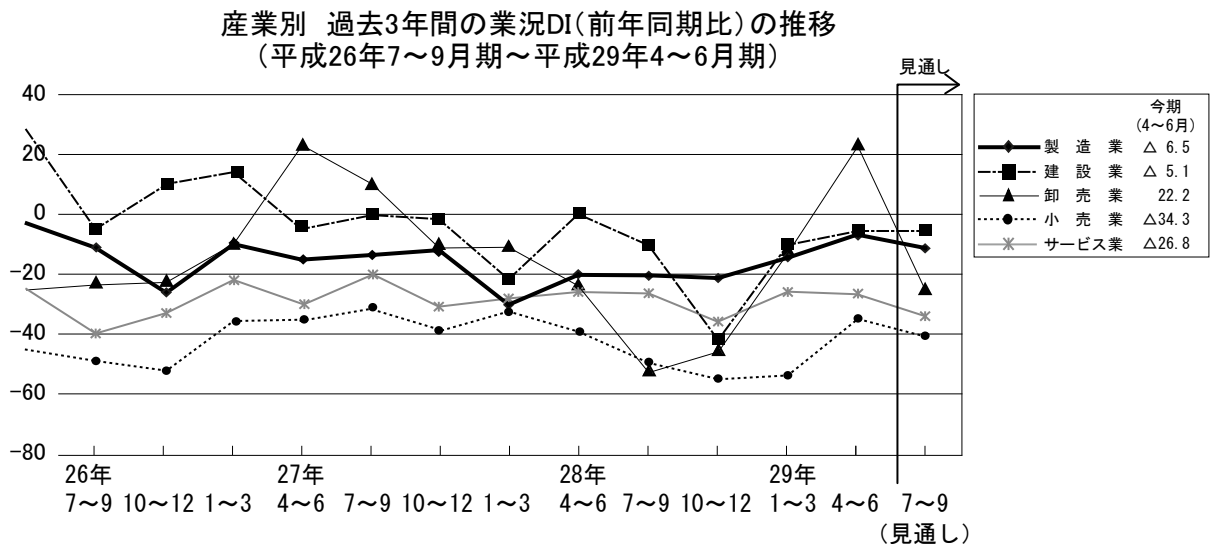
【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

今期の業況判断DIは、▲18.3と前期比で8.6ポイント改善している。
一方、来期については、▲24.7と悪化する見通しである。



今期の産業別の業況判断DIは、製造業が▲6.5と前期比で6.3ポイント、建設業が▲5.1と前期比で5.4ポイント、卸売業が▲22.2と前期比で33.3ポイント、小売業が▲34.3と前期比で19.1ポイント改善している。一方、サービス業が▲26.8と前期比で0.5ポイントと悪化している。
来期は、全業種とも悪化見通しである。



【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域等からの121企業を含めた286サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況DIについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

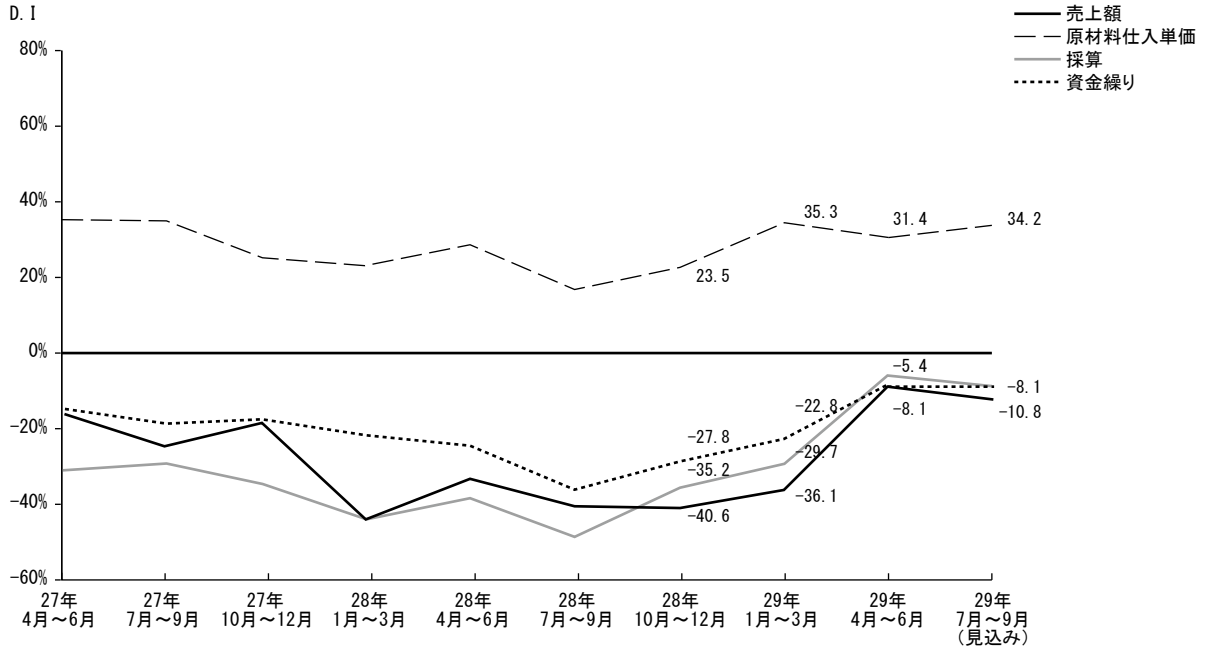
2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲8.1と前期比で28.0ポイント改善している。一方、来期は▲10.8と悪化する見通しである。原料仕入単価D Iは、今期は31.4と前期比で3.9ポイント低下（改善）している。一方、来期は34.2と上昇（悪化）する見通しである。採算D Iは、今期は▲5.4と前期比で24.3ポイント改善している。一方、来期は▲8.1と悪化する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲8.1と前期比で14.7ポイント改善している。来期は▲8.1と横ばいの見通しである。

今期は、全てのD Iが改善している。一方、来期は、資金繰りD Iを除き、小幅ではあるものの悪化する見通しである。

山梨県 製造業D I 主要景況項目の推移—前年同期比—

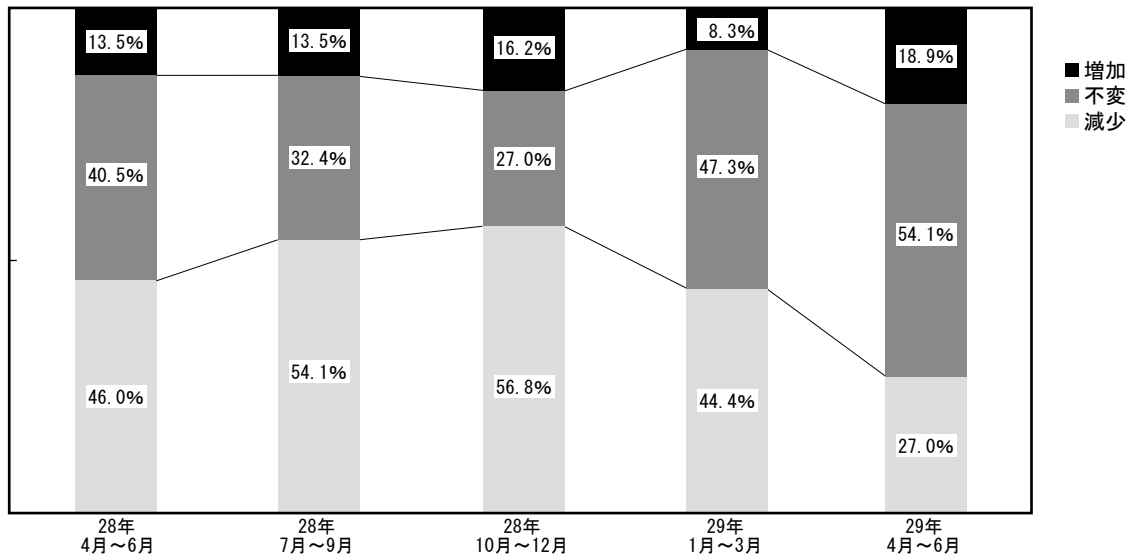


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数37社（前期36社））

「増加」と答えた企業の割合は、18.9%（7社）と増加している（前期比+4社）。「不変」は54.1%（20社）と増加（前期比+3社）、「減少」は27.0%（10社）と減少している（前期比▲6社）。

山梨県 製造業 売上額の状況—前年同期比—

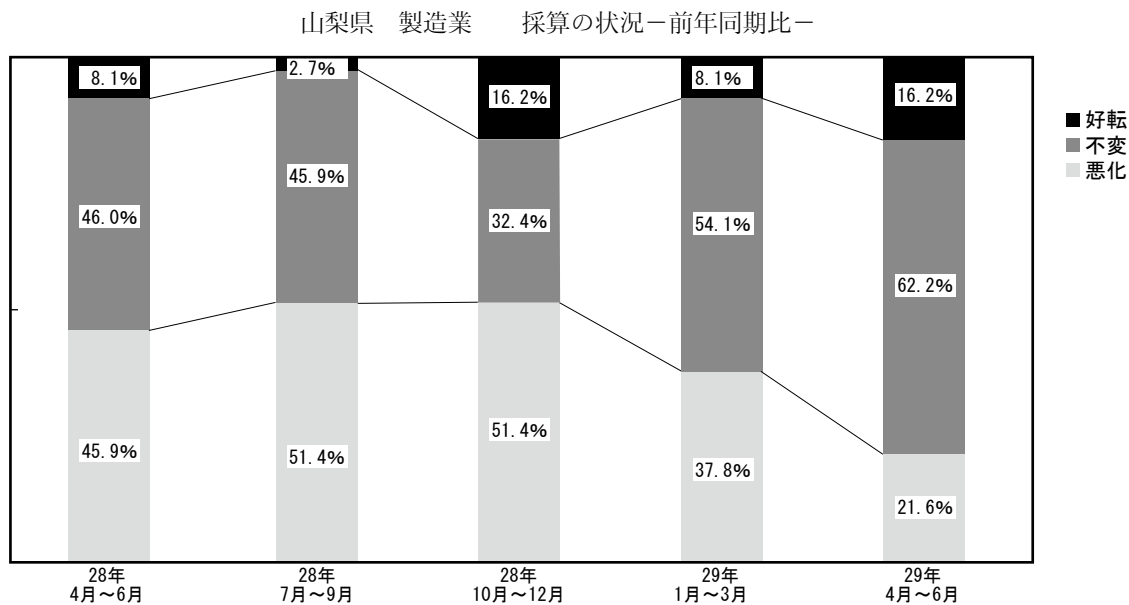


② 採 算（採算D Iの内容（回答企業数 37 社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、16.2%（6 社）と増加している（前期比+ 3 社）。

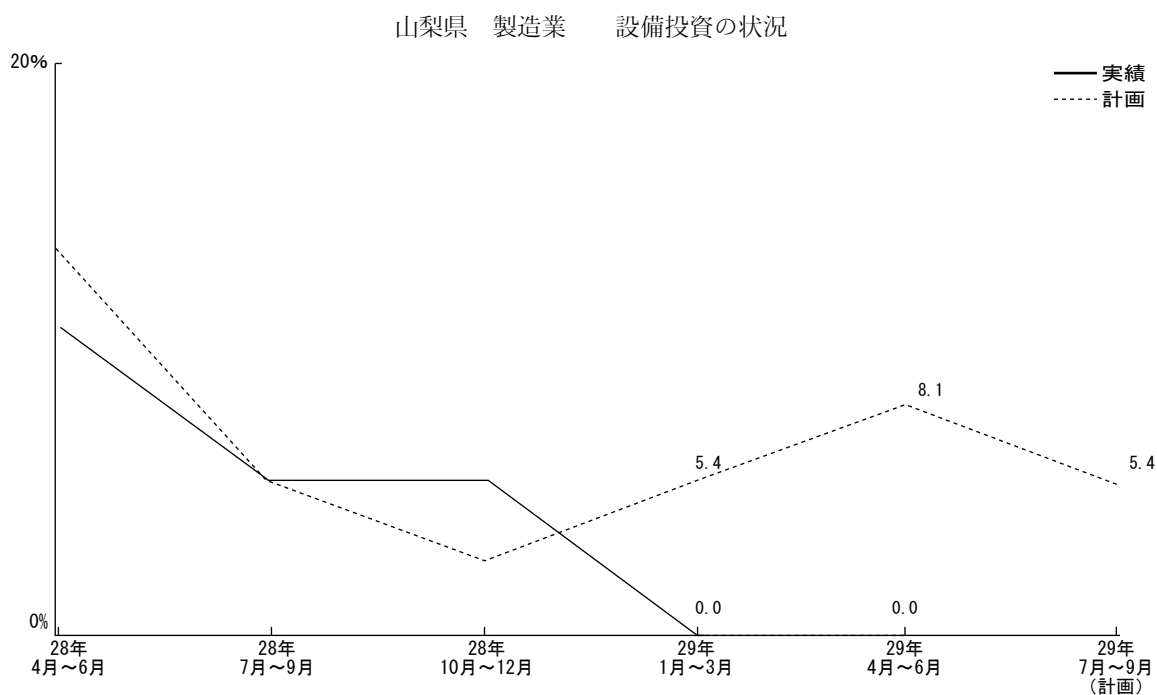
「不変」は 62.2%（23 社）と増加（前期比+ 3 社）、「悪化」は 21.6%（8 社）と減少している（前期比▲ 6 社）。



③ 設備投資（直近 1 年間における設備投資の状況（回答企業数 37 社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は 0.0%（0 社）であった。

来期の計画については、5.4%（2 社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「生産設備」が 2 件になる。



④ 経営上の問題点（回答企業数 32 社）

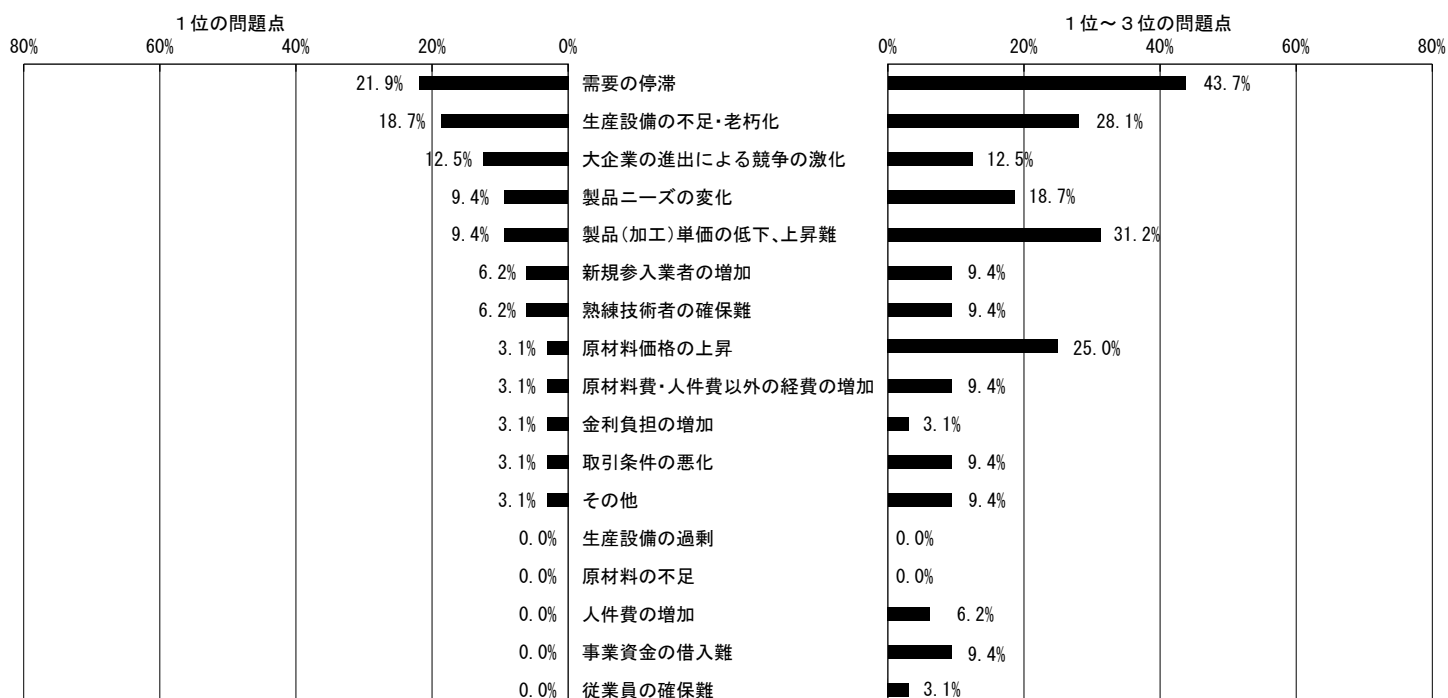
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」の 21.9%（7 社）であり、2 番目は、「生産設備の不足・老朽化」の 18.7%（6 社）である。

次に、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」の 43.7%（14 社）であり、2 番目は、「製品（加工）単価の低下、上昇難」の 31.2%（10 社）である。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	6	16.2
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.7
衣服・その他繊維製品製造業	0	0.0
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	4	10.8
金属製品製造業	2	5.4
一般機械器具製造業	12	32.4
電気機械器具製造業	2	5.4
輸送用機械器具製造業	1	2.7
その他製造業	5	13.5
合計	37	100.0

従業員規模別

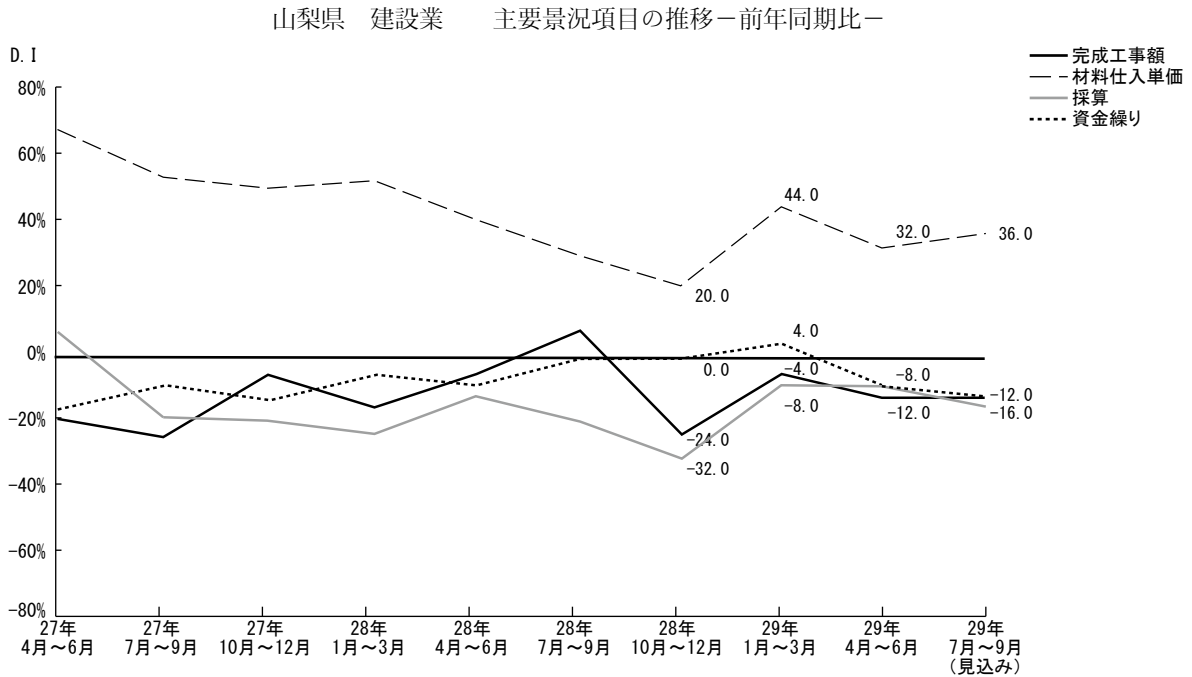
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常	雇	い	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下	24	64.9	20	54.1
3人～5人以下	5	13.5	5	13.5
6人～10人以下	5	13.5	8	21.6
11人～20人以下	3	8.1	4	10.8
合計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額DIは、今期は▲12.0と前期比で8.0ポイント悪化している。来期は▲12.0と横ばい見通しである。材料仕入単価DIは、今期は32.0と前期比12.0ポイント低下（改善）している。一方、来期は36.0と上昇（悪化）する見通しである。採算DIは、今期は▲8.0と前期比横ばいとなっている。来期は▲16.0と悪化する見通しである。資金繰りDIは、今期は▲8.0と12.0ポイント悪化している。来期は▲12.0と更に悪化する見通しである。

今期は、完成工事額DI、資金繰りDIが悪化している。来期は、完成工事額DIを除いて悪化する見通しである。

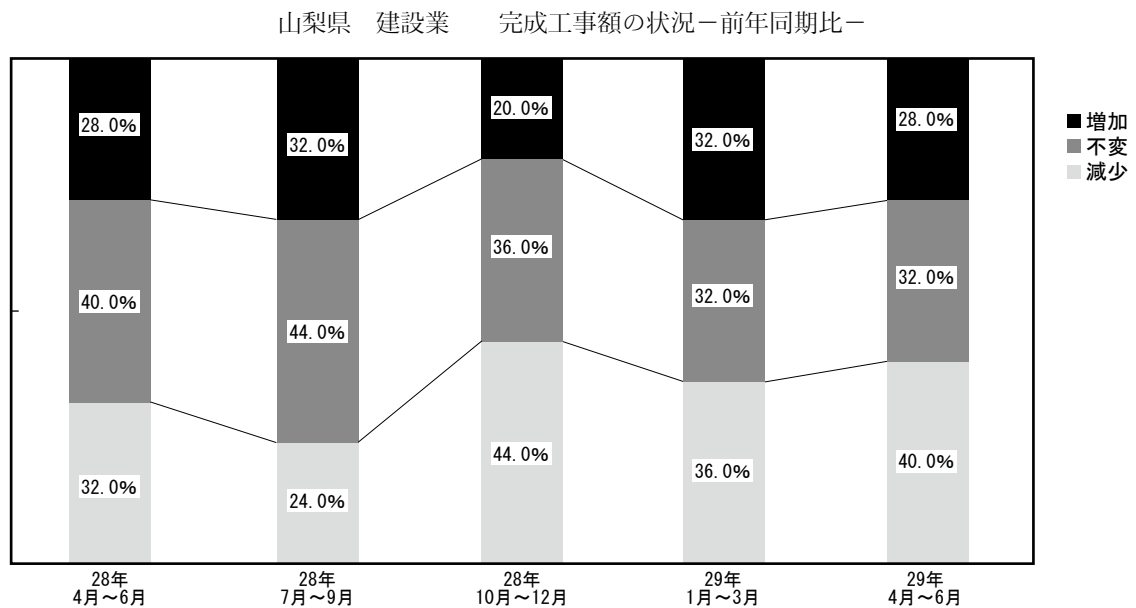


(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（完成工事額DIの内容（回答企業数25社））

「増加」と答えた企業の割合は、28%（7社）と減少している（前期比▲1社）。

「不変」は32.0%（8社）と横ばい（前期比±0社）、「減少」は40.0%（10社）と増加している（前期比+1社）。



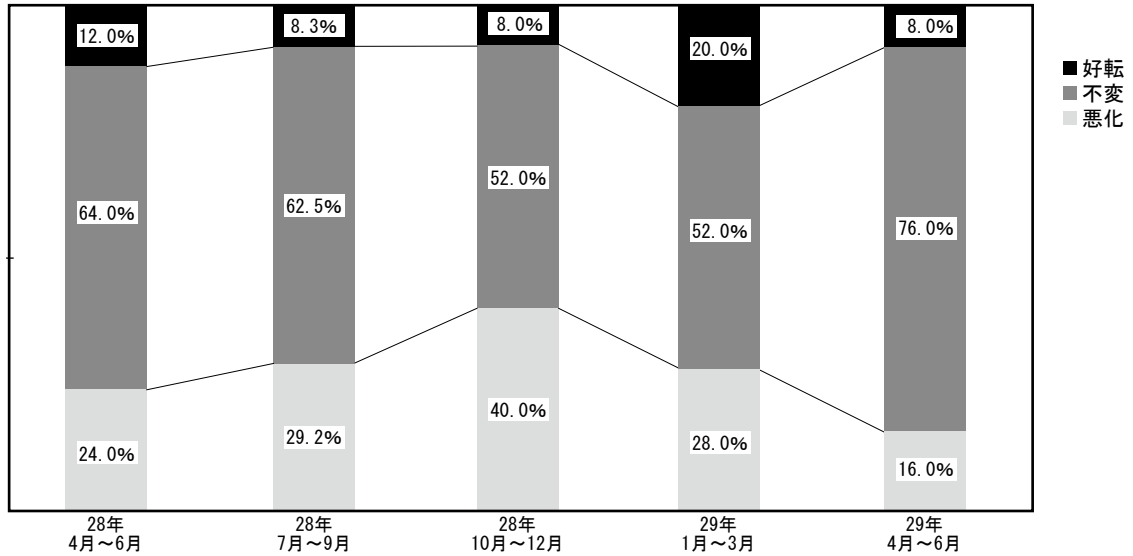
② 採算（採算D Iの内容（回答企業数 25 社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、8.0%（2社）と減少している（前期比▲3社）。

「不変」は76.0%（19社）と増加（前期比+6社）、「悪化」は16.0%（4社）と減少している（前期比▲3社）。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－



③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数 25 社））

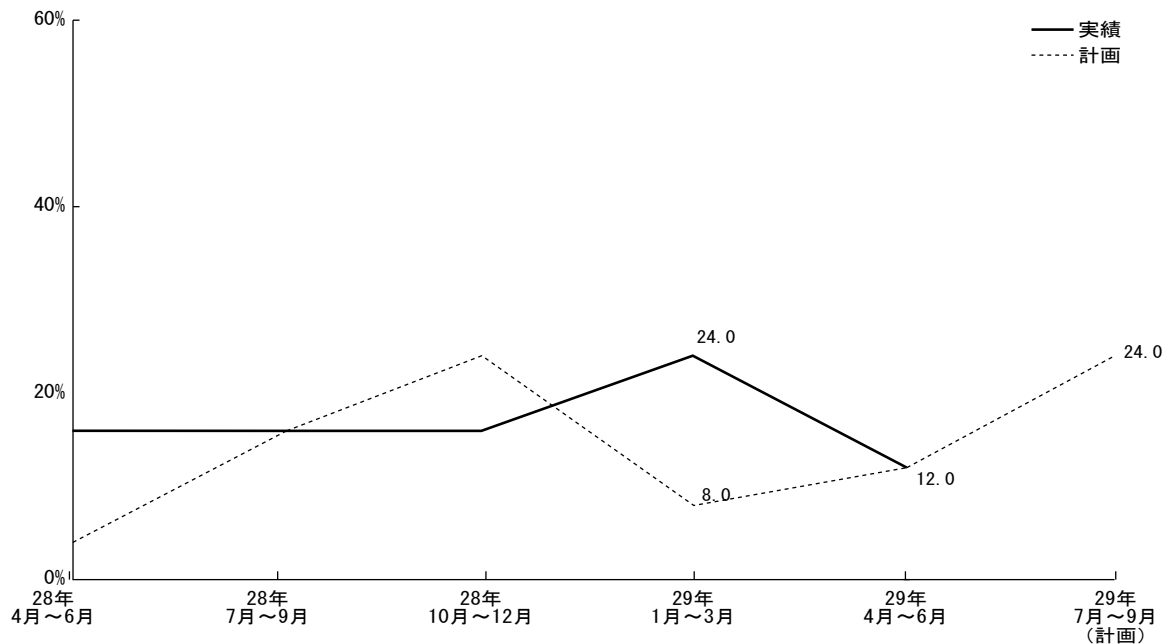
今期において、設備投資を行った企業の割合は12.0%（3社）であった。

その設備投資の内容は、「OA 機器」が2件、「建設機械」、「車両・運搬具」が1件ずつであった。

来期の計画については、24.0%（6社）の企業が予定している。

その設備投資の内容は、「土地」、「建設機械」、「車両運搬具」が2件ずつ、「建物」、「OA 機器」が1件ずつになる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数 23 社）

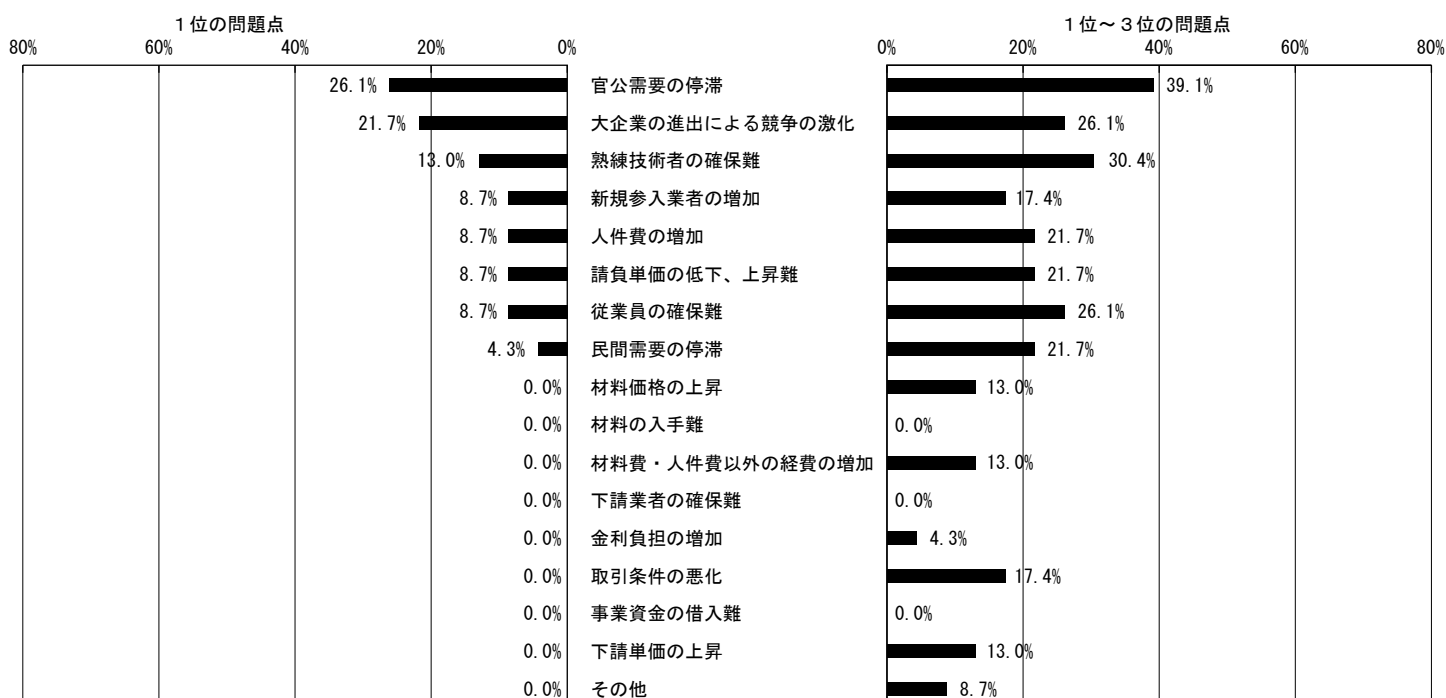
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「官公需要の停滞」の 26.1%（6 社）であり、2 番目に多かったのは、「大企業の進出による競争の激化」の 21.7%（5 社）である。

次に、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは、「官公需要の停滞」の 39.1%（9 社）であり、2 番目に多かったのは、「熟練技術者の確保難」の 30.4%（7 社）である。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	18	72.0
職別工事業	5	20.0
設備工事業	2	8.0
合計	25	100.0

従業員規模別

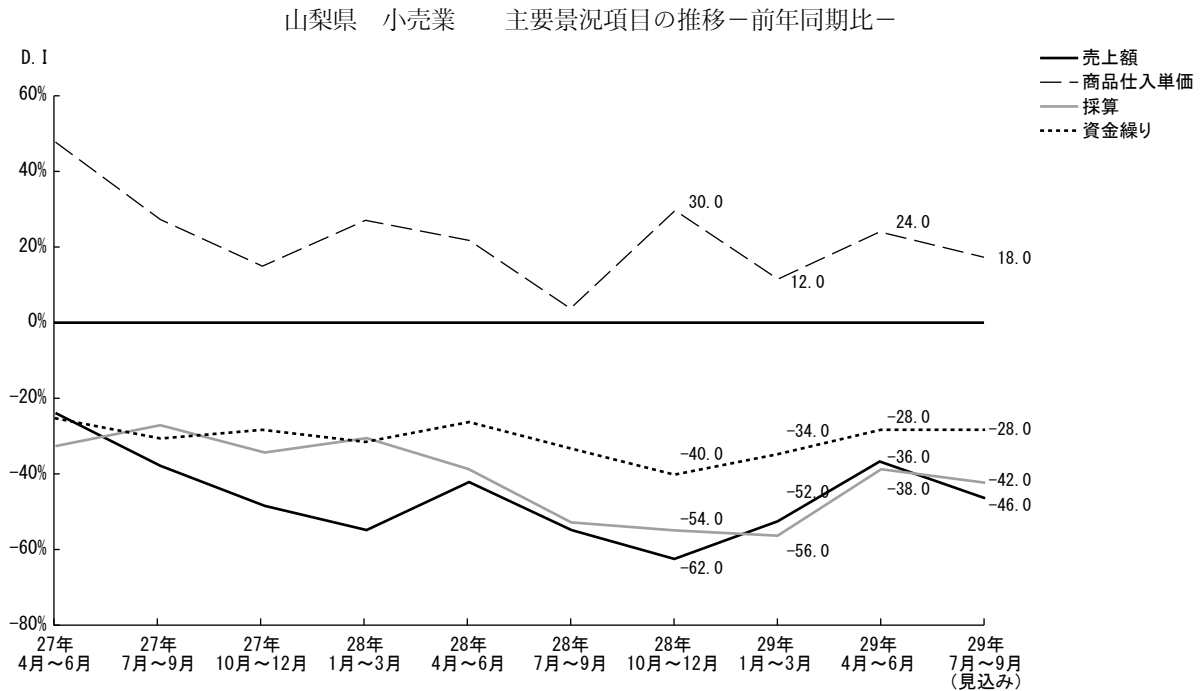
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇	い	企業数	構成比(%)
2 人以下	9	36.0	8	32.0
3 人～5 人以下	6	24.0	7	28.0
6 人～10 人以下	5	20.0	5	20.0
11 人～20 人以下	5	20.0	5	20.0
合計	25	100.0	25	100.0

4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲36.0と前期比で16.0ポイント改善している。一方、来期は▲46.0と悪化する見通しである。商品仕入単価D Iは、今期は24.0と前期比で12.0ポイント上昇（悪化）している。一方、来期は18.0と低下（改善）する見通しである。採算D Iは、今期は▲38.0と前期比で18.0ポイント改善している。一方、来期は▲42.0と悪化する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲28.0と前期比で6.0ポイント改善している。来期は▲28.0と横ばい見通しである。

今期は、商品仕入単価D Iを除いて改善している。来期は、商品仕入単価D Iが改善する一方、売上額D I、採算D Iが悪化する見通しである。

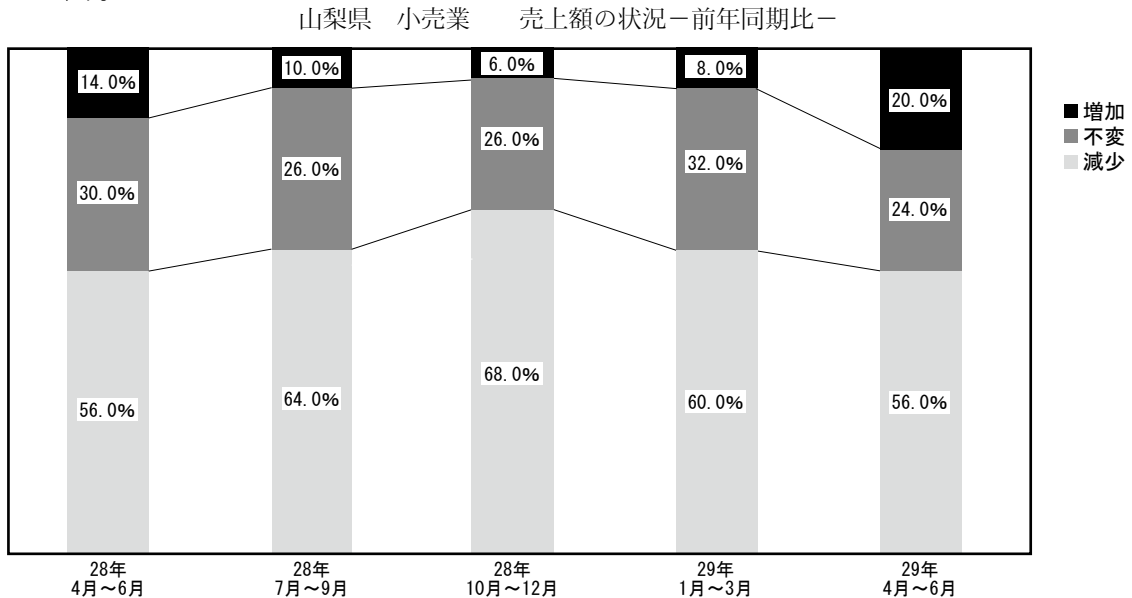


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数50社））

「増加」と答えた企業の割合は、20.0%（10社）と増加している（前期比+6社）。

「不変」は24.0%（12社）と減少（前期比▲4社）、「減少」は56.0%（28社）と減少している（前期比▲2社）。

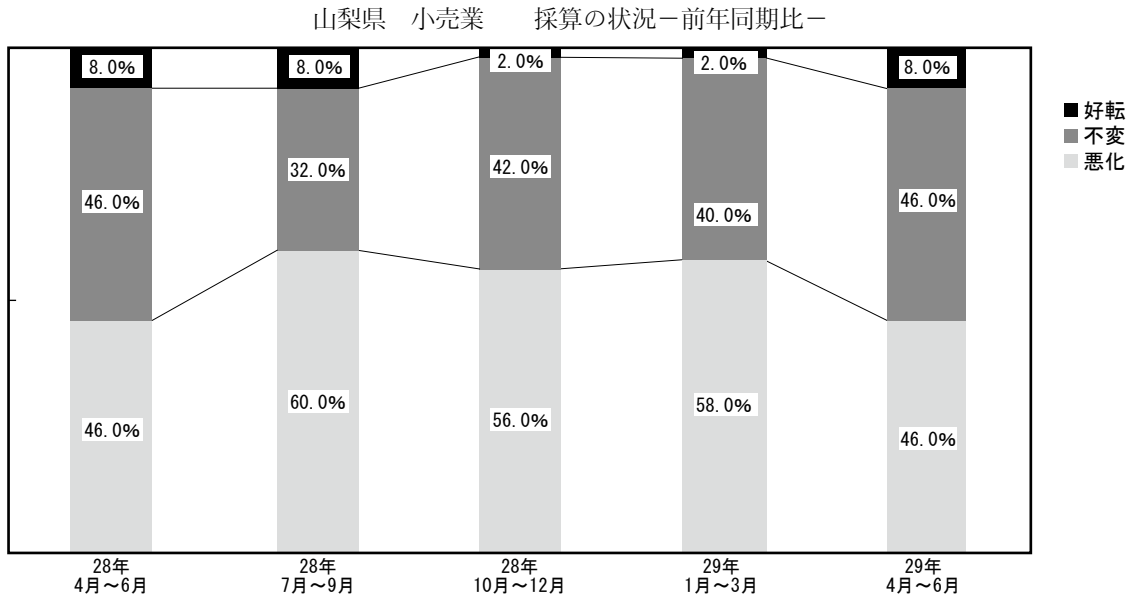


② 採 算（採算D Iの内容（回答企業数 50 社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、8.0%（4社）と増加している（前期比+3社）。

「不変」は46.0%（23社）と増加し（前期比+3社）、「悪化」は、46.0%（23社）と減少している（前期比▲6社）。



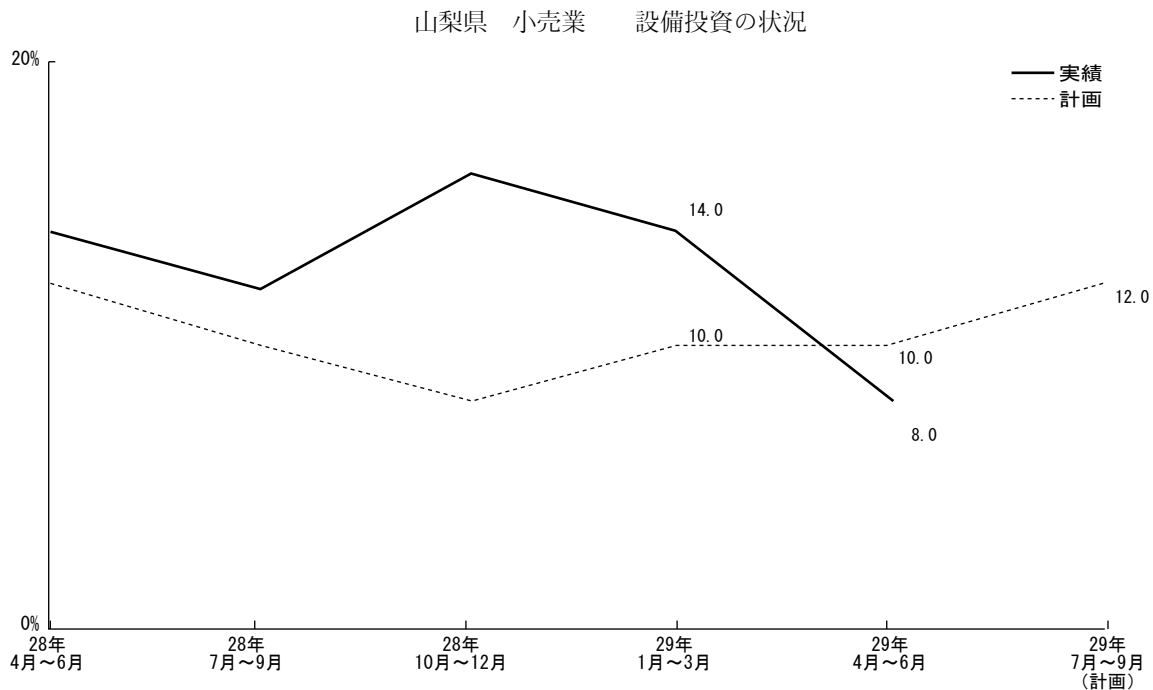
③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数 50 社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は8.0%（4社）であった。

その設備投資の内容は、「OA 機器」、「その他」が2件ずつであった。

来期の計画については、12.0%（6社）の企業が予定している。

その設備投資の内容は、「車両運搬具」、「その他」が2件ずつ、「販売設備」、「OA 機器」が1件ずつになる。



④ 経営上の問題点（回答企業数 48 社）

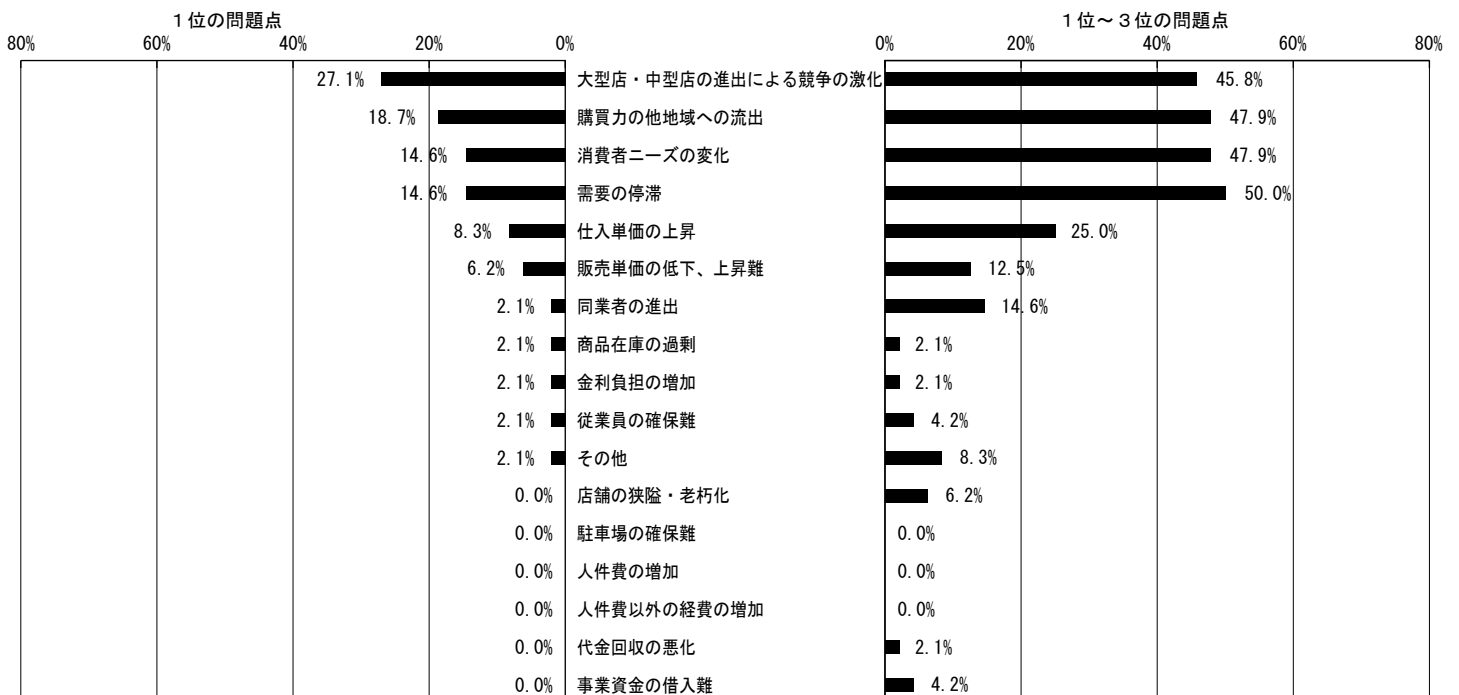
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「大型店・中型店の進出による競争の激化」の 27.1% (13 社) であり、2 番目に多かったのは、「購買力の他地域への流出」の 18.7% (9 社) である。

次に、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」の 50.0% (24 社) であり、2 番目に多かったのは、「購買力の他地域への流出」、「消費者ニーズの変化」の 47.9% (23 社) である。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0.0
織物・衣服・身の回り品小売業	12	24.0
飲食料品小売業	16	32.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	16	32.0
合計	50	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2 人以下	46	92.0	40	80.0
3 人～5 人以下	4	8.0	10	20.0
6 人～10 人以下	0	0.0	0	0.0
11 人～20 人以下	0	0.0	0	0.0
合計	50	100.0	50	100.0

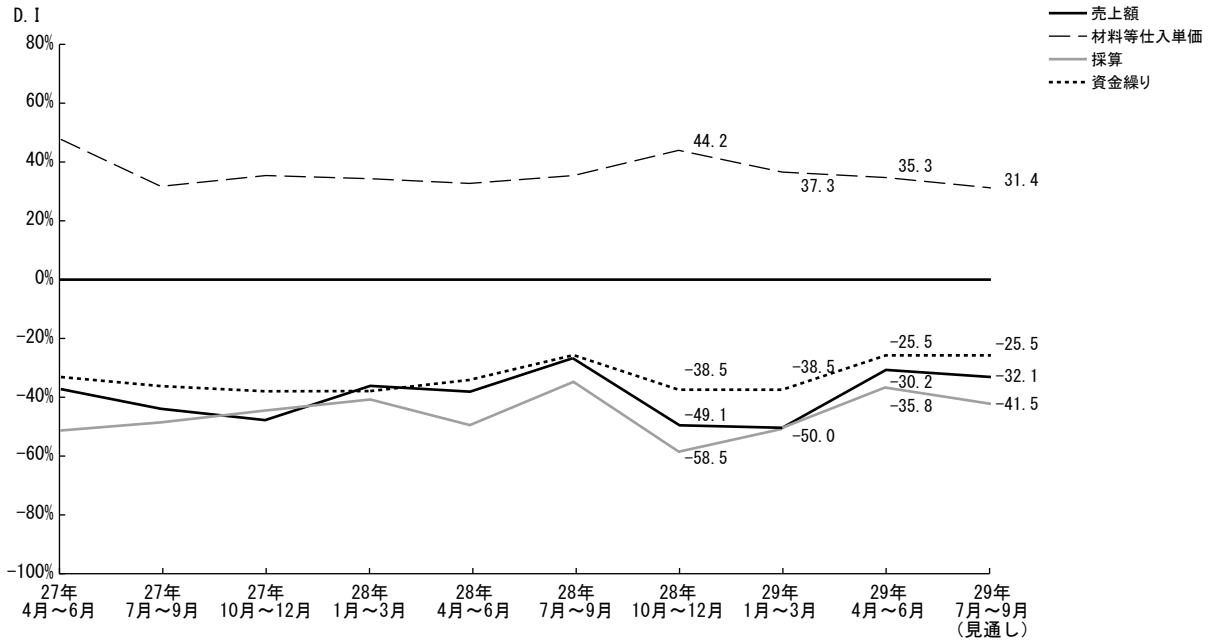
5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲ 30.2と前期比で19.8ポイント改善している。一方、来期は▲ 32.1と悪化する見通しである。材料仕入単価D Iは、今期は35.3と前期比で2.0ポイント低下（改善）している。一方、来期は31.4と更に低下（改善）する見通しである。採算D Iは、今期は▲ 35.8と前期比で14.2ポイント改善している。一方、来期は▲ 41.5と悪化する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲ 25.5と前期比で13.0ポイント改善している。来期は▲ 25.5と横ばい見通しである。

今期は、全てのD Iが改善している。来期は、売上額D I、採算D Iが悪化する見通しである。

山梨県 サービス業 主要景況項目の推移－前年同期比－



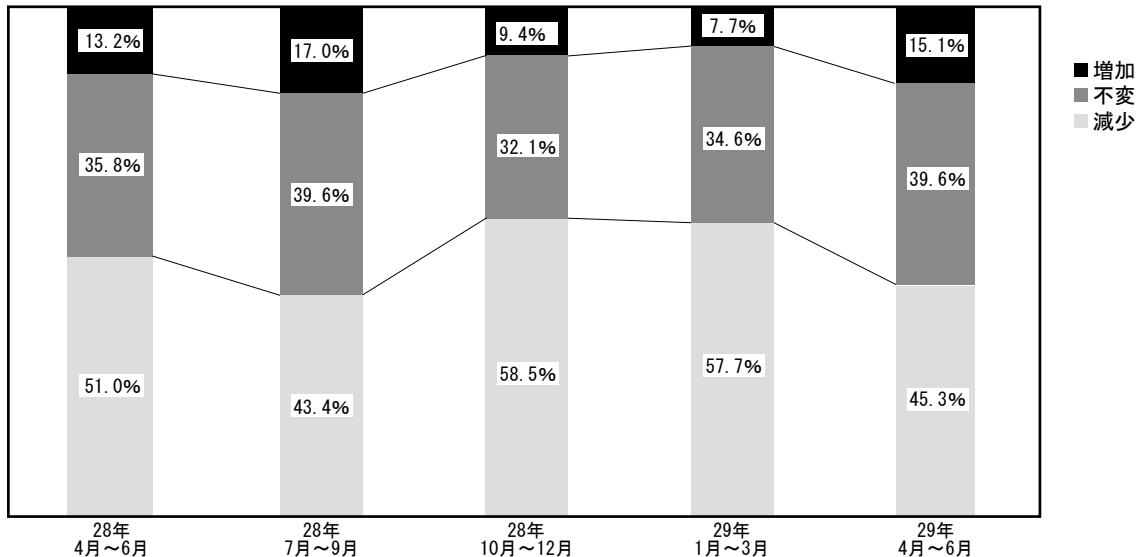
(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数53社（前期52社））

「増加」と答えた企業の割合は、15.1%（8社）と増加している（前期比+4社）。

「不変」は39.6%（21社）と増加（前期比+3社）、「減少」は45.3%（24社）と減少している（前期比▲6社）。

山梨県 サービス業 売上額の状況－前年同期比－

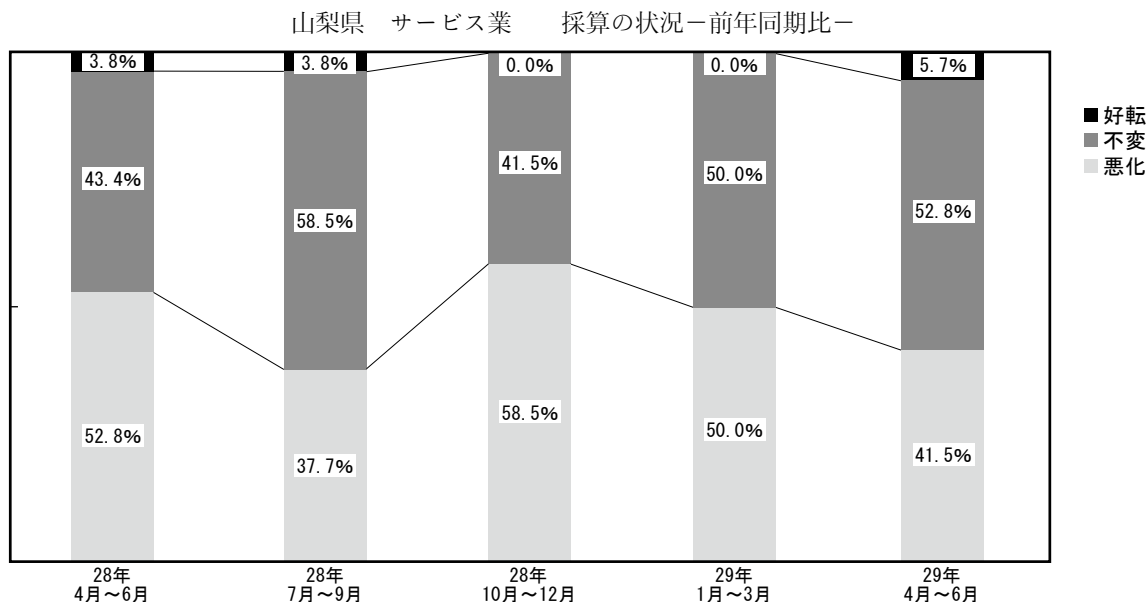


② 採 算（採算D Iの内容（回答企業数 53社（前期 52社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、5.7%（3社）と増加している（前期比+3社）。

「不変」は52.8%（28社）と増加し（前期比+2社）、「悪化」は41.5%（22社）と減少している（前期比▲4社）。



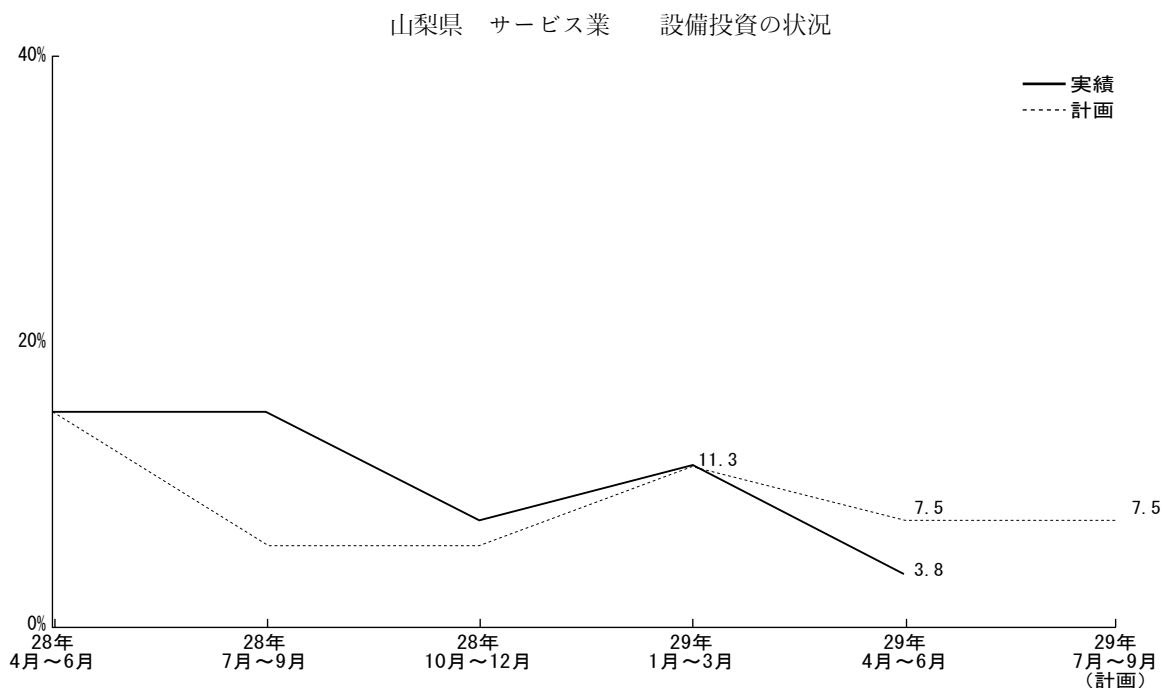
③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数 53社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は3.8%（2社）であった。

その設備投資の内容は、「サービス」、「OA機器」、「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、7.5%（4社）の企業が予定している。

その設備投資の内容は、「その他」が3件、「建物」、「サービス」、「車両運搬具」が1件ずつになる。



④ 経営上の問題点（回答企業数 49 社）

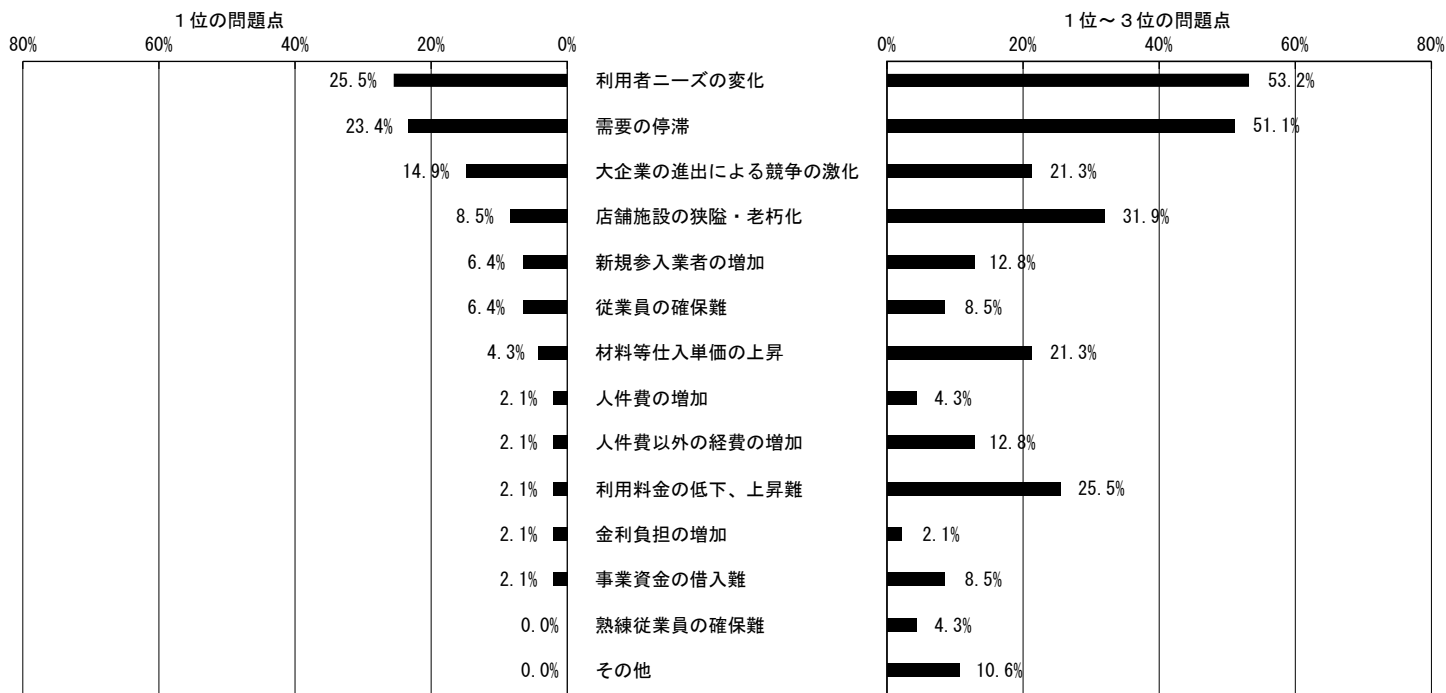
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の25.5%（12社）であり、2番目に多かったのは、「需要の停滞」の23.4%（11社）である。

次に、「1 位～3位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の53.2%（25社）であり、2番目に多かったのは、「需要の停滞」の51.1%（24社）である。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	35.8
宿泊業	7	13.2
運送業	2	3.8
自動車整備業	3	5.7
洗濯・理美容業	19	35.8
その他のサービス業	3	5.7
合計	53	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	企業数	構成比(%)
2 人以下	46	86.8	42	79.2
3 人～5 人以下	7	13.2	11	20.8
6 人～10 人以下	0	0.0	0	0.0
11 人～20 人以下	0	0.0	0	0.0
合計	53	100.0	53	100.0